

巻 頭 言

日新病院
佐藤 豊

昨年10月27日、太田医療技術専門学校にて第31回群馬県理学療法士学会が開催されました。テーマは、『衣鉢相伝 ～技能（ワザ）の伝承～』と題し、次世代を担う会員の皆様に理学療法の本質を理解していただく機会になればと、県内外のスペシャリストにご登壇いただき、明日から使える知識や技術をご教示いただきました。働き方の多様性にも着目し、お子さまと一緒に参加できるキッズルームを新設するなど、県学会としては初めて350名を超える参加者にご来場いただき、活発な議論が行われました。

ご参加いただいた皆様、演者の皆様、学生ボランティアを含む運営スタッフおよび学会関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

さて、『2040年』と聞いて読者の皆様はどのようなことを連想されますか。昨年、厚生労働省において新たな地域医療構想の案が示され、今後予測される地域医療の在り方や介護保険領域との連携、人材確保など多くの課題について提示されました。病床の機能区分や地域ごとの医療機関機能が変わる可能性があること、在宅医療や介護の需要変化に伴い事業所の役割が変わる可能性があるなど、我々の働き方に直結する問題であることに間違いはありません。一方で、処遇改善の問題や理学療法士の需要と供給のバランスが崩れる予測もあり、我々の将来を危惧する声も聞かれます。

このような制度や仕組みの変化に対応するためには、問題の本質を正しく理解するための考える力（臨床推論学的思考）や問題解決する力（技能）を基盤とした理学療法士の専門性を高めることで社会的な地位を担保することも重要なツールのひとつであると筆者は考えており、高める手段として認定・専門理学療法士の取得や研究や学術論文の執筆、熟読など手段は多岐にわたります。

本誌もそのひとつであり、専門性を磨く有効な手段として会員の皆様に広く活用していただきたいと思います。近年、投稿数も増えており、理学療法の発展に寄与することを期待します。